

2005 年 (平成 17 年) 3 月 1 日火曜日 (毎月 1 日発行)

1 部 50 円 (消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版室 発行人/出版室長 工藤 秀和 〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022 (代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報 (一隅推進会員) 年費 2500 円 (中に会報 (天台ジャーナル) 購読料を含む)

極微 ごくみ

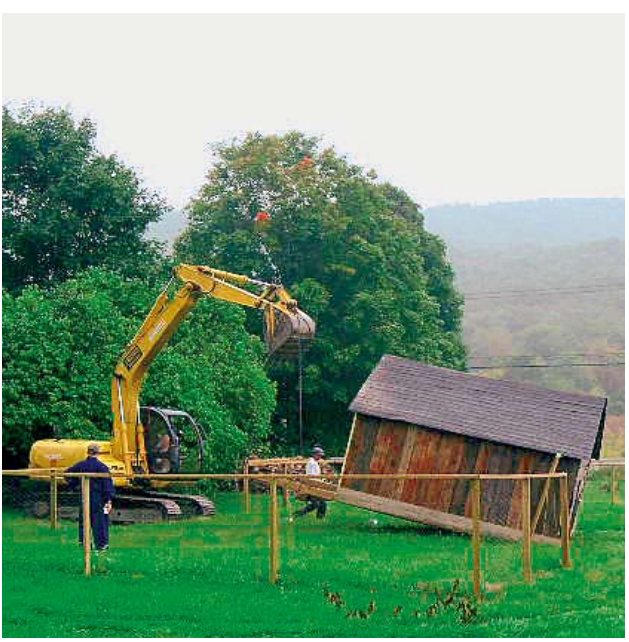
魚が危ない。汚染ではなく、魚そのものが激減しているのだ。マイワシなどは日本海では獲れなくなっている。そういえば、売り場に行くといえ、魚の産地も世界中に広がっていることに気が付く。世界の漁獲量は五十年前の二十倍近くに成っている。最早、漁業資源

問題は一国で対処出来なくなっている。地球温暖化や、オゾン層の破壊などと共に許容範囲ギリギリに人間の消費活動が迫っている感がする。それにしても、飼料にまでしていたイワシが高級魚になるとは隔世の感である。

ニューヨーク別院 インド・禅定林 諸事業への助成を決定

天台宗では、昨年十一月二十五日に開かれた「開宗千二百年慶讃大法会海外支援事業調査特別委員会(清水谷善圭委員長)において、ニューヨーク別院(間真・ポール・ネイモン住職)の本堂建設などの諸事業に対して五千万円と、インド禅定林(サンガ・ラトナ・マナケ法天住職)にも三千万円の助成を行うことを決定。去る二月に開催された第百七回通常宗議会で、同委員会の報告が了承され、助成金が交付される運びとなった。

海外開教にエール



新本堂の建設は昨年八月に仮本堂の解体から始まった

また、インドの地において大乘仏教復興の拠点として大乗の建設を進めている「インド禅定林」に対しても今年二〇〇七年の完工に向け大乗の建設を進めている「インド禅定林」に対しても今年二〇〇七年の完工に向け大乗の建設を進めている「インド禅定林」...

天台の教えを 全世界に弘める

また、インドの地において大乘仏教復興の拠点として大乗の建設を進めている「インド禅定林」...

法灯

宗教的情操教育 大守俊彦 天台宗布教師会理事

「憶えているわ、その話」。その話とは三十年も経った昔のこと。初冬の或る小学校の昼休み、暖かい日だまりに集まってきた子ども達から、「地獄や極楽は、ほんとにあるん？」と問われた。坊さん先生であった私は、幼い頃祖母から何度も聞かされていた、嘘をついたり悪いことをしたら、針の山や、血の池地獄の責苦に遭わなければいけないという話をあげた。聞いていた子の顔も真剣である。その大勢の真顔の中に...

にアメリカ文化に合う布教が出来るのか、その手法を考えることが一番困難なことです」と答えている。日系人と違って、日本文化を全く知らないアメリカ人に対して法を説くのは初めての試みである。それだけに天台宗との密接なコミュニケーションや、布教システムの早期確立などが必要不可欠となるわけである。ニューヨーク別院は経済的にも決して豊かでないだけに、今回の助成はアメリカ開教への大きなエールとなった。 当たり、西郊良光天台宗宗務総長は「外国の地において天台の教えを弘めることは困難なことだが、出来る限りの支援を行いたい。天台の教えがアメリカ、インドそして全世界に弘めることになると信じている」と語っている。(6面に関連記事)



2月、インド・禅定林で行われた日印合同平和祈願友好法要で挨拶するサンガ師



### 花想 風言

厳しい冬の季節を耐えた花芽が春の光を受け、日ごとふくらみつつ、厚い苞を脱ぎ捨て、大輪を天に向けて一斉に開く。まるで純白のシャンデリアを見るようで、爛漫の春がやってきたという思いあふれるひとときだ。

モクレン科のハクモクレンは古い時代に中国からやってきた。漢名で「玉蘭」とよばれ、観賞用に庭園に植えられる。三月の声を聞くと葉の出る前に花が開き、乾いたような香気が満ちている。東京や鎌倉の寺社の境内には百年を超えるような大木があり、満開の一週間ほどは、闇夜でもほの白く浮かび、思いのほか夜道も明るくみえるのだ。

ハクモクレンの仲間には農事暦の目安になるコブシ、花に香気があるシデコブシ、葉を嚼むと甘い味がするタムシバと日本特産の花々があって、いずれも真っ

### 第12回 ハクモクレン 福田徳衍 (文・写真)

白な花を咲かせて春を告げてくれる。なかでもシデコブシは、愛知三重・岐阜の山間部がふるさとで、環境庁の絶滅危惧種に指定された花木なのだ。

今春開かれる『愛・地球博』の会場の海上の森は世界中の植物学者に知られたシデコブシの聖域だったが、伐採反対の市民の声を押し切り、多くの木が消滅してしまった。

文明だとか文化だとか、うそぶきつつ権力ある人々が行うしわざは、果てのない破壊行為でしかない。

咲ききりし 白木蓮の揺らぎかな  
(星野 立子)

◆プロフィール  
五十二年生まれ。土蔵から三十二歳まで山籠りして小僧生活をして過した。元朝日新聞社記者。信越教区新潟部。徳法院住職。俗名 福田 徳衍。

## 鬼手仏心

### 四季

天台宗出版室長

工藤 秀和

まだまだ寒い日が続きますが、冷たい風の中にも、ようやく春の気配を感じるようになりました。光は、まだ冬のものですが、時折キラリとした輝きを見せるようになり、心弾むものを感じます。

外国人の知人が私に「日本には四季があつてうらやましい」と言いました。彼の国は一年中常夏の気候だからと言います。しかし、春や秋はともかく、私のように豪雪の地に暮らす者は、常夏の方がずっとうらやましい思いがする」と反論しました。

その気候ゆえに自殺が多い」と意外なことを言うのです。「日本の諺に『冬来たりなば春遠からじ』というだろう。悪いときがあつても、投げやりにならずに頑張っていれば、またいいことが巡ってくるという意味だろう。そのをつに気分転換できるのは四季があるお陰だ。自分の国では、一度まずい状態に落ち込んでしまえば、気候に閉じこめられて抜け出すことが難しいんだよ。」

なるほど、四季には、人に希望をもたせる効果があつたのです。私も春が巡らず、一年中雪の中に置かれているのでは、きつと参つてしまつてしまう。都会人は雪をロマンチックに考えていますが、雪国に暮らす私には、家を押しつぶす自然の脅威なのです。雪国の人々は春を待ちわびて生きています。

「ああ、早く桜が見たい」と言いますと、その友人は「日本人は、どうしてすぐ散る花が好きなのかね。『花』というのには、長く咲いて楽しませてくれない」と言いました。どうも、国際理解にたどりつくに道は遠いようです。

## インド霊鷲山紀行 (1)

九州東・霊山寺住職 植田 恵秀



昨年十月十九日に日本を発ち、約十日間に亘つてインド・霊鷲山を中心に参拝をしました。

私が住職をしている大分県の霊山寺は、和銅元年(七〇八)山籠の植田荘の豪族祐世がこの山中で十一面観

音を感じたことに始まり、約十日間に亘つてインド・僧那伽法師が来日された際、山の姿がインドの霊鷲山にそっくりなので「霊鷲山の一角が日本に飛んで来たのではあるまいか」と驚き、その奇しき因縁から伽藍を造営し、「飛來山」の山号をつけたと伝えられるほど、ご縁の深い寺です。それほど形が似ているということなのに、私はこれまで参拝したことがなく、生涯に一度はお参りしたいと心に決めていたことが、今回ようやく実現しました。

霊鷲山は、釈尊の時代のマガダ国首都王舎城を囲む五山のひとつとしてそびえる岩山です。釈尊が法華経や阿弥陀經を説かれた聖地であり、特に『無量寿經』の説法地として名高い山です。その名は、山頂の岩が鷲の形をしているからともいわれます。釈尊はその晩年、多くの時間をここで過ごされ、『無量寿經』『観無量寿經』『法華經』『般若經』を初め、数々の經典を説かれました。

さて、今回のインドの旅に私を案内してくれたのは、中村行明さんという、日蓮宗僧侶の方でした。中村さん

## 素晴らしい言葉たち

よき細工は、少しにぶき刀を使ふといふ。

妙観が刀はいたくたず。

(腕のいい細工師は、切れ味の少し落ちる小刀を用いるそうだ。彫刻の名人、妙観の小刀はあまりよく切れない。利きすぎる腕を、ほどよく抑えるためである。)

切ることが目的である以上、刃物は切れ味が大事です。

しかし、切られる側からすれば、鋭利な刃物が最上とはいえません。

木も生き物である以上、相性というものがありません。自分を生かしてくる微妙な刃当たりを求めます。

まして、人間ならなおさらです。概して利け者といわれる人は、自分を基準にしますから鈍い人を見下しがちです。それでは、下のものはたまりません。一人ひとり、素材は違っているのが当たり前、その個性

を生かしていく事の方が大事なのです。

人と人との間には、言葉で言い現せない玄妙なやりとりがあり、頭の切れ味鋭く、仕事もばりばり出来るけれど人情味のない人より、少しづつ鈍くても温かい人の方に人望は集まります。

ある有名な陶工が「完璧な器はどこか冷たく、日常生活では使う気がしないものだ」といつていました。

切れすぎる刃物というのは、常に自分自身をも傷つけるおそれがあるということをお忘れぬようにしたいと思います。

は、インドに二十六年滞在し、ダライ・ラマ十四世や日本山妙法寺の藤井日達管長と巡り会つて寺院を三力寺建立するなど、仏教の復興運動に携わっている人です。私の、霊鷲山に参拝したいという希望を聞くに即座に案内役をかって出してくれました。ツアーではなく、個人で参拝したかったものですから、彼がガイドをしてくれると聞いて、心丈夫にインドに出発することができました。(次号に続く)

# 談話室

## 仏教の散歩道



### ひろさちや

をわの支や／巻多  
問らそい。ち8多  
な点説幅いろ8多  
々視くはてひ経な  
様なすはけ「心経  
家のや口受を般若  
作仏か切持著の新  
潮社」

東京では、エスカレーター  
の左側に立ち、右側を急ぐ人のた  
めにあげるようにします。とこ  
ろが、大阪ではこれが反対にな  
ります。どうしてなのでしょう  
か……？

ところで、エスカレーターの  
片側をあげる風習、あれはよく  
ないと思います。急ぐ人は階段  
を利用すればいいのです。急ぐ  
人のために片側をあげるものだ  
から、多くの場合、エスカレー  
ターに乗るために長い列が出来  
てしまい、急がない人には迷惑  
です。

また、エスカレーターが急に  
停止したようなとき、動いてい  
る人は危険です。とくにエスカ  
レーターを急いで降りている人  
は、下手をすればドミノ倒しに  
倒れてしまうでしょう。いまに  
きつと事故が起きると思いま  
す。大事故が起きてはじめて、  
日本では規制がなされます。み  
すみず危険がわかっているの  
に、前もって対処することはし  
ない。日本人はおかしな民族で  
すよね。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「六郷満山」  
「岩戸寺」  
「国東半島に春を告げる  
修正鬼会を奉修」

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。

「苦にしない解決法」  
というわけ、わたしはエ  
スカレーターに乗るたびに、い  
つもういらしてました。へ  
ば、病気が思うがままになりま  
す。



## 国東半島に春を告げる 修正鬼会を奉修

国東半島に春を告げる「六郷満山修正鬼会」が去る二月十五日に、岩戸寺(上田大祐住職)で行われ、多くの参拝者で賑わった。

「六郷」とは昔、国東半島を安岐、武蔵、国前、伊美、田梁、来縄の六郷に分けていたことから、また「満山」は浄城に満ちみちた寺院の集合を称したものだ。

「六郷満山修正鬼会」は六郷満山に千年前より伝わる伝統行事で、毎年正月に国家安穩、万民快樂、五穀豊饒を祈念する。

江戸時代までは国東半島の天台宗の各寺で行われていたが、今は天念寺(松本文尋住職)と成仏寺(安部暁昇住職)、岩戸寺の三方所で行われている。西満山に属している天念寺では毎年行われ、東満山の成仏寺と岩戸寺では隔年交代で行われている。

国東の鬼は「鬼に姿を変えた御祖先様」や岩戸寺では開基仁聞菩薩の化身という考え方で、良い鬼とされている。そのため鬼には阿闍梨の位を持つ高徳な僧侶が扮し、村の若者たちが鬼の介添えをつとめる「タレイ」という役を受け持つ。

頭密一致の大法要で、修正会の勤行とともに、鈴鬼や荒鬼等の仏の化身が登場する立役とが組合わされ「ハヤシ方」の楽隊が奏する音律が経文の中にとり入れられるなど独特の儀式で、鬼会は、国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

同日タイレたちは瀧淵で水垢離をとって身を清め、黒い頭巾に鬼と書いた鉢巻きをしめて、上田院主の前にならび、盃を交わして結縁する「盃の儀」を行った。

この後、本堂前に供えられた長さ五メートルの大松明に火が灯されるタイアゲの儀式が行われ、講堂まで運ばれた。夜の勤行のあと、餅巻が行われ、中の白玉を拾った人は無病息災財宝無為の功德を得るとされることから、参拝者たちは、福にあずかるうと競って拾い合った。

二人の僧が翁と姥に似た鈴鬼の面をかぶり、弊と鈴を持って舞う法舞で「鬼招き、鬼招き」と唱えると荒鬼(鬼走り)となる。



(カット・伊藤 梓)



### 檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への発送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

〒 520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁 総務部 出版室  
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

お問い合わせ

# A Story in the Tendai

## 思いよ届け! 津波被災の妻の祖国へ

神奈川・泉福寺副住職 浮岳 亮仁・サウミヤー 夫妻

# 仏と生きる



Vol.11

今どきの日本で、国際結婚など珍しくはない。「ダーリンは外国人」という本がベストセラーになるところをみると、ある種のがこがれすらあるようだ。しかし、寺院では、その伝統と歴史、儀式性ゆえに「嫁さんは外国人」という所は少ない。住職に国際感覚と意識はあっても、檀家と経営を考えれば「愛」だけでは踏み切れないのが現実だ。が、徐々に新しい風も吹き始めている。神奈川県泉福寺副住職の浮岳亮仁は、大恋愛の末に平成十三年八月、スリランカの女性と結婚式を挙げた。そして昨年のスマトラ沖地震では、情報を得た直後から、檀家はもちろん、天台宗神奈川教区仏教青年会等と呼びかけて、大被害を受けた妻の国スリランカに救援物資を送り続けた。夫妻の呼びかけで集められた物資は一月末で二・二トンのにも及ぶ。地球単位で共生しようという夫婦の生き方は、檀家や地域から幅広い支援を得た。

### 国境を越え、人種を越えて

川崎市宮前区の泉福寺は、天台宗神奈川教区の有力寺院だ。多くの檀家を有し、武相不動の二十三番霊場として信仰を集めている。同寺住職で亮仁の父・浮岳亮仁と母・真理子は、日常の寺院活動のほかに、スリランカで両親を亡くした子どもたちを支援する「スリランカ里親制度」を長く続けている。亮仁はその姿をみて育った。彼は、阪神大震災ボランティアであり役に立つことができなかつた経験から「人々の役に立つ技術を学びたい」と考えた。その時に両親と縁の深いスリランカの言葉(公用語はシンハラ語)をマスターしようとした。二年間、語学学院に通った後、現地のスリジャヤワルダナプラ大学文学部に聴講生として語学留学することになった。成城大学、大正大学に続いて彼には、三つ目の大学である。同じ学部には、将来妻となるサウミヤーがいた。スリランカは親日の仏教国である。共通の土壌はあるが、日本は、誰もが仏になれるという大乘仏教。スリランカは上座部仏教である。亮仁は神奈川仏教のテレホン法話にこう書いていた。「日本では、お坊さんが洋服を着たり、車を運転したり、結婚し



左から浮岳真理子さん。歩美ちゃん。サウミヤーさん。亮仁師(泉福寺にて)

てまかまいませんが、スリランカでは、お坊さんをやめないう限り、それらのことは許されません。映画をみたり、お酒を飲むことも禁止されています。(平成十二年五月) 悟りを開くために山に籠もって修行する僧侶がいる一方で、八十パーセントは町に住んで葬儀や祈祷をする国である。その文化で育ったサウミヤーは、日本の僧侶と結婚することをどう感じたのか。そもそも、スリランカでは、僧侶と結婚とは矛盾する。「スリランカのお坊さんよ、日本の僧侶の方が、嘘がありません。彼女は、はっきりと言った「亮仁さんは、

### スリランカの子守歌

さて、世間で言う嫁姑の關係はどうか。ウチほど仲のいい嫁と姑はないわよ。毎日、朝から晩までお喋りして「ますよ」と姑の真理子と言葉を聞く思いである。この二人のコンビは、肝つ玉母さんと出来た嫁という感じである。一粒種の歩美を交互に抱きながら、どちらも、一緒にいるのが楽しくて仕方がないという暖かい雰囲気伝わっている。真理子が言った。「たまに何か悩んでいると思ったら『お義母さん、たまたま出来たという(たまたま)の反対

語は何ですか?」なんて聞くのよ。ん?答えられないじゃないのよ、そんな難しいこと、いきなり聞かないでほしいわ。ウハハハ。昨年十二月二十六日に起こったスマトラ沖地震では、サウミヤーの母から泉福寺に電話で第一報が入った。「海が押し寄せて来た。大勢の人が死んだらしい。ああ、何が起きたんだろ?」。スリランカには津波という言葉はない。海外チャンネルでは、津波のことを報じていた。妻の家族には被害がないことが分かったが、詳細は分からない。眠れぬ夜を過ごした亮仁は翌日、東京高輪のスリランカ大使館へ向かった。大使館のスタッフは食事もせずに電

とても誠実な人です。それ以上は笑って言わなかった。それゆえ、私も彼女の言葉から導かれる推測を書かない。もちろんプロポーズしたのは亮仁だが、サウミヤーにしてみれば即答できるわけもなかった。彼女の父は弁護士、姉は医師である。スリランカのハイソサエティを構成する。家なのは言わなくてもわかる。祖国での「良縁」と「安定」を望むなら、なおさらである。機会は降る星のようにあつたはずだ。加えてスリランカでは、離婚は日本ほどポピュラーではない。結婚は神聖で軽々しくすべきでないというのが当地の事情である。スリランカ社会は離婚者に厳しい。戻る橋を焼く決意がある。慎重にならざるを得ない。亮仁は「お互いに、未知の部分で心配することが多すぎた」というが、最初彼女の父はこの結婚に反対だった。亮仁は彼女の一家を日本に招き、説得した。その甲斐あつて最後は父親も二人の結婚を承認してくれたが、あやうく日本のロミオとスリランカのジュリエットになるところだった。

その意味では、自分の思いを粘り強く貫き通した亮仁も偉いが、家族を説得して未知の世界に飛び込むと決意したサウミヤーの方に重宝があつた。「不安でないことはなかったけれど、結婚にあつては、まず噂が一人歩きしないように檀家の人々に経過を知らせ、結婚式には全檀家に招待状を出した。「サウミヤーのことは、おおむね好評に受け入れてくれました」。

結婚式は、平成十三年に西郊良光宗務総長夫妻の媒酌により、スリランカで、また十四年に泉福寺で二回挙げた。戒師は東京・深大寺の谷玄昭貫首がつとめた。この時、サウミヤーは寺庭婦人得度をして、「清蘭」の法名を受けている。日本語は四谷の日本語学校に通い詰めてマスターした。



津波被災の子どもたちは、贈られたおもちゃに大喜びだった。

結婚してからは、適当にやっていたかもしれない。彼女のためにも一生懸命にやらないと」と言った。二人は三月にスリランカに向かい、復興への手伝いをする予定だ。人間が地球上に引いた線は、これまで差別や戦争という悲劇を数限りなく引き起こしてきた。仏教は人類平等の教えだ。そんな人間の引

日常会話に不自由はない。私が、関西弁を交えた質問をしても、全く問題なかった。きれいな日本語である。今一番つらいのは、まだ漢字が書けないことだ。また「背中を押し込まれる満員電車と、女子高生生のスカート」の短気にはカルチャーショックを感じた」という。「いいの?」か?あれ。昨年三月、夫婦は長女歩美を授かった。未だに納豆は食べられないが、米の文化を共有する国同士である。泉福寺の畑では野菜も栽培する。茄子、キュウリ、トマト、獅子唐、オクラ等々。日本の夏野菜は、スリランカと同じだ。「日本は自然が豊かで、四季があるのが素晴らしい。一番好きな季節は冬だ。彼女は、日本に来るまで雪をみたことがなかつた。

意外だったのは、送った玩具やぬいぐるみが、子どもたちから、喜ばれたことだった。何もかも失った現地の子どもたちは、ぬいぐるみを離さなかつた。玩具は、彼らの心の支えとなつたのである。協力してくれた人々を招いて寺では報告会も開かれた。その時、サウミヤーはチキンとレンズ豆でカレーライスを祖國の味に作って振舞った。歩美を抱きながら、サウミヤーはスリランカの子守歌をよく歌う。亮仁は「坊やよい子だ、ねんねしなというスリランカの子守歌は、日本と同じように、どこか哀調を含んだメロディーである。それを聞きながら亮仁が「寺のこと、仏教のこと、頑張らな

後援：天台宗開宗1200年慶讃大法会事務局

### 世界遺産シリーズ イタリア 7日間

## 天台聲明と東儀秀樹

東京・名古屋・大阪発同一料金 **325,000円**

開宗千二百年記念特別法要「世界平和の祈り」

聖地「アッシジ」

1986年10月、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけで、諸宗教の指導者・代表者が「アッシジ」に集まり、世界平和祈願を行いました。天台宗からも山田恵隆天台座主が参加されました。アッシジは世界宗教の聖地であり、天台宗にとっても極めてゆかりの深い土地です。このアッシジの地で、開宗千二百年を記念して、特別法要「世界平和の祈り」を行います。あれから20年、世界から不幸な出来事は、いまだ止みません。この旅が「世界平和の祈り」であることを願っております。

天台宗開宗千二百年記念ツアーの特色

- アッシジライトアップコンサート「邂逅」——千年のめぐり合い
- アッシジライトアップコンサート結団式
- 開宗千二百年記念特別法要「世界平和の祈り」
- メモリアル夕食会

2005年「日本ユネスコ文化遺産」に選定されたアッシジの地をめぐります。このイベントは天台宗の歴史を振り返り、アッシジの地をめぐります。このイベントは天台宗の歴史を振り返り、アッシジの地をめぐります。このイベントは天台宗の歴史を振り返り、アッシジの地をめぐります。

近畿日本ツーリスト 営業推進室

近畿日本ツーリスト 大津支店

03-3255-7299

077-522-7518

03-3255-0719

077-526-4503

ボンド保証会員

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト

# インド禅定林大本堂が着工

## 建設支援金の目録贈呈も

インドを拠点に活動するサンガラトナ・法天・マナケ師が住職を務める禅定林大本堂の地鎮祭と、サンガ師が代表を務めるパンニヤ・メッタ・サンガ(PMS)が運営する図書館の地鎮祭が、二月八日、インド・バンダラ県ポーニ市ルヤート村で厳修された。

今回の地鎮祭には天台宗から、西郊良光宗務総長、森定慈芳延曆寺執行、壬生照道一隅を照らす運動総本部長ら関係者多数が出席。禅定林大本堂地鎮法要は三万人に及ぶインド人仏教徒の見守る中、西郊宗務総長を大導師に執り行われた。地鎮作法、穴中作法など法要が進められた後、歓迎式典において西郊宗務総長より大本堂建設支援金三千万円の目録がサンガ師に手渡された。

この大本堂は開宗千二百年慶

讃大法会の記念事業として行われるもので、インドでの大乘仏教の一大道場として、インド仏教徒の精神的象徴、世界平和の祈りの場とされる。

また同日、パンニヤ・メッタ図書館の地鎮祭が壬生一隅を照らす運動総本部長を大導師として行われ、サンガ師の育ての親である堀澤祖門師(延曆寺一山泰門庵住職)が鍬入れを行った。この図書館は教材も買えず、家に電気もないため学習が出来ない最下層の児童達のため

に無料開放されていたが、数年来の大雨のため半壊、活動も休止状態となっていた。そのため、PMSから要請を受けた一隅を照らす運動総本部が平成十五年度より支援を続け、この度の建設復興につながったもの。今回法要後の歓迎式典においてもパンニヤ・メッタ子ども家並びに図書館に対する支援金が贈呈されている。図書館は二〇〇六年二月完成予定となっている。

なお、前日七日にはパンニヤ・メッタ学園の増築・体育館落成式が河野憲俊南総教区宗務所長を導師に執り行われた。この体育館は南総教区が建設支援していたもので、一年前に着工しており、このたびの竣工となったもの。



インド禅定林の大本堂地鎮祭で、穴中作法に臨むサンガ師

波津に津波の被害を受けたインドの被災者支援に、岡山教区第四部仏教青年会(椛田宏善会長)では、一月十二日、仏青会員八名が、昨年未曾有の被害となったインド洋大津波被災者にと、JR倉敷駅で義援金托鉢を行った。

また、一月二十四日、仏青会員、檀信徒、仏具店関係者合わせて三十六名が、第三十六回を数える交通事

### 義援金托鉢を実施 交通事故故者慰霊托鉢も

岡山教区第四部仏教青年会(椛田宏善会長)では、

故事故者慰霊托鉢も行なった。

午前七時、倉敷市旧霞橋東詰地蔵尊前で交通事故故事故者慰霊法要後出発、二班に分かれて国道二号线を經由し岡山市城山トンネル東大師までの約二十四キロを托鉢、途中、交通事故現場では塔婆を立て読経をしながら行脚した。

### 大般若転読法要を執行 宗祖大師縁の浄法寺で

群馬教区仏教青年会(綾小路乗俊会長)では、一月二十三日、浄法寺(緑野智彦住職)で大般若転読法要を執り行った。

今回、二回目となるこの法要は、開宗千二百年慶讃大法会記念し、青年会特別事業の一環として行われており、大

法会期間中継続して行われる。当日、仏青会員、教区内住職、多野部福聚教会会員、檀信徒等八十名が参加し厳修された。

伝教大師縁の寺でもある浄法寺所蔵の大般若経六百巻は、破損が目立ち、今後群馬仏青事業の一環として修復さ

### 修験道っておもしろい!

金峯山修験本宗 宗務総長 田中利典師が刊行

修験道と言うと山伏姿と山を巡り歩くことぐらいしか、一般的に知られていない。理由は一つ、明治初期の修験道廃止令により、ほとんどの修験の霊山が神社化され、修験道そのものが姿を消したため

だ。その中で、唯一、吉野・大峯の霊山だけが正統の修験道寺院としての命脈を保ったという。

修験の大峯奥駈修行は、真夜中に起き、大自然を拝み、行程百七十キロを踏破する過酷な修行だ。行中で一度死に、再び蘇生するという擬死再生の行である。そんな行に魅せられた人がいる。奥駈けから帰ったら、会社が倒産していたのに、全く動揺しなかった人。かと思うと、行のために会社を辞めた人がいる。なにがそうまで引きつけるのか。著者の田中利典師によると「生と死を超越する『行』の世界の体験である。山中修行の体験で蘇った人々はやがて、日常生活で自分とそ



両日寄せられた浄財は、山陽新聞社の社会福祉事業団に寄託された。

の回りを変えていく」のだ、という。

修験道は千三百年の歴史を持つ日本独自の仏教であり、神と仏が融合したユニークな多神教的な世界観を持つ宗教である。本書では、その修験道の真髄についてやさしく噛み砕いた解説がしてあるほか、著者のこれまでの修行にまつわる体験談、修験に懸ける思い、現代の世情と修験についてなどが綴られている。読み進めていくうちに、修験道に対する興味が自然に湧いてくる「修験道案内書」となっている。

田中利典著・白馬社刊・千五百円(税別)



れることとなっている。この他、仏青では種々の慶讃事業が企画されている。(報告・宮本匡順通信員)



# 脅かされる学校の安全

これまで来たか、との感が強い。直接的には寝屋川市の小学校での、十七歳少年による教師刺殺事件が原因だ。それ以前にも大阪教員大付属池田小に乱入した男に次々と八人もの児童が殺害されたことから、学校の安全の問題は一気にクローズアップされた。学校の悩みは深い。警備員を雇う学校、侵入者撃退の道具を買

承認された平成十七年度の通常会計は、歳入歳出ともに前年度と同様の十一億千五百万円となっている。平成十七年度は開宗千二百年慶讃大法会行事で、四月からの総登山運動、十月の大法要など、諸々の行事・法要に関する予算措置等が含まれた予算案も提案通り承認をみた。また、昨

子ども達に与える影響を心配しているのである。来訪者の入校を厳しくチェックするとか、教職員の研修などが必要であろうが、



「安全はお金で買う時代になった。」  
これはある小学校の校長の言葉である。

校長の悲痛な叫びでもあるのだが、この言葉は、

児童まで過度に巻き込むとなると、教育現場の自殺にもなりかねない。

学技術の進展によって人間は多くのものを手に入れることができたが、生活の利便性の追求は飽くことを知らない。欲望はさらに肥大化し、一方では人間関係を希薄化させてしまった。その結果心のバランスをとりきれなくなった若者が次々と生じ、中には心の闇が露

来年の新年号について、取材を始める。冬の号なので、少なくとも写真だけは冬に撮っておかなくてはならないのだ。一年やってみると、色々分かってくる。●六郷満山取材に大分国東へ行く。あいにく雨だったが、村の人々の熱気がすごい。熱気はすごいが、やはり寒い。メイン行事は夜中だから、足下の暗闇も難儀である。滑って靴もズボンも泥だらけになる。雨から

カメラを庇って移動するのが大変だが、日露戦争のラップ手が「死んでもラップを離さなかつた」ことに比べれば、

何ということもない。テレビ局は、数十人のスタッフとクルーを送り込んでくるが、こちらは交渉から、取材までただ一人が右往左往する。日付が翌日になる頃、取材を終えて、コンビニ弁当を買って宿に帰る。●一隅を照らす運動機関誌「ともしび」が四月から、出版室に移管されます。よろしくお祈りします。

# 平成十七年度の予算成立

## 大法会関連諸事業や震災復興を中心に

天台宗では、二月二十二日から二十五日までの会期で「第百七回通常宗議会議案(奥村慶淳議長)を開催、平成十七年度通常会計予算案をはじめとする予算関係諸議案や宗規改正議案などについて審議を行い、当局上程議案をいずれも可決承認した。

承認された平成十七年度の通常会計は、歳入歳出ともに前年度と同様の十一億千五百万円となっている。平成十七年度は開宗千二百年慶讃大法会行事で、四月からの総登山運動、十月の大法要など、諸々の行事・法要に関する予算措置等が含まれた予算案も提案通り承認をみた。また、昨

二月七・八日の両日、京都妙法院門跡を会場に、平成十六年度の天台宗檀信徒会会長研修会が開催され全国から二十四名が参加した。研修会

それぞれ研修を行った。また、十日には、東京教区で布薩作法研修会が開催された。

二月十六日、天台宗務庁で平成十六年度の天台宗布教師の教区布教会長会議が開催された。会議では、平成十七年度の布教方針を「共生」をキーワードに展開することとし、それに伴う実践方針内容の確認が行われた。

桐山 了宥師  
平成17年1月31日遷化  
東京教区無量寺住職  
2月7日日本葬儀執行

# 天台トピックス

# 祝 新任職任命

- 【兵庫・戒光院】藤井祐朋師
- 【兵庫・善樂寺】藤井亮俊師
- 【九州西・坂東寺】田北乙子師
- 【三岐・賢明寺】野田憲秀師
- 【神奈川・明長寺】松田亮寛師
- 【栃木・醫王院】菅原照光師
- 【栃木・禪智院】貴船慈浩師
- 【茨城・薬王院】中村純亮師
- 【神奈川・景観寺】赤沼徳海師
- 【神奈川・成願寺】赤沼徳祐師

# 示寂

桐山 了宥師  
平成17年1月31日遷化  
東京教区無量寺住職  
2月7日日本葬儀執行

消防用設備 (工事及び保守点検) 設計、施工

# 株式会社 しばでん

〒601-8005 京都市南区東九条西岩本町3-9

電話 075-661-1117  
FAX 075-681-4655  
休日・夜間 075-931-5516

# 天台ジャーナル 平成17年度ご購入のご案内

いつも「天台ジャーナル」をご愛読頂き、誠にありがとうございます。

平成16年度分のお届けは、3月号で終了いたします。

\*\*\*\*\*  
引き続き、平成17年度(4月号から来年3月号まで)ご購入をお願い申し上げます。

お問い合わせ・お申し込み  
〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁 出版室  
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814

●天台宗公式ホームページからも、お申し込み頂けます。  
<http://tendai.jp/journal/moushikomi.html>

### 一隅を照らす運動 組織体制が変わります

一隅を照らす運動は「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」という、宗祖伝教大師さまの教えを現代に生かし、自分が生かされているその場所(一隅)で精一杯生きることによって、一人ひとりが心豊かな人になり明るい未来を実現していくという運動です。

この宗祖伝教大師のご精神を体し、仏国土の建設に精進することを弘めようと、昭和四十四年一隅を照らす運動が発足しました。以来三十五年、様々な実践活動を展開してまいりましたが、時代の変遷の中で組織体制を見直し、今以上の一隅を照らす運動の発展、「生命・奉仕・共生」の三つの柱のもと活動の充実、推進拡大を図ります。

### 組織変革について

(左記組織図参照)

### ◎支部について

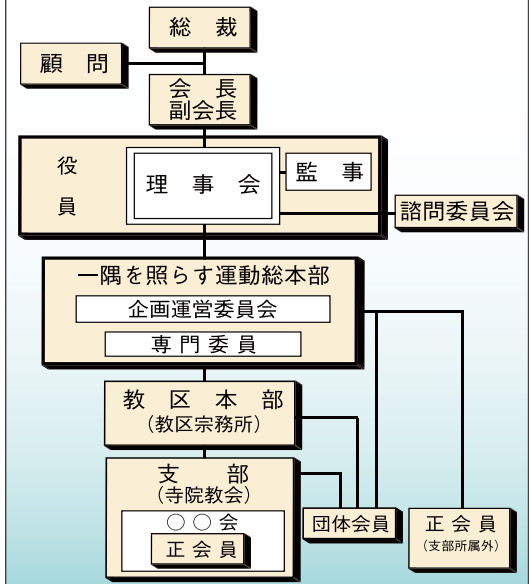
支部長を中心に、活動形態として自主性・独自性を持ち、地域や支部の実情にあつた活動を実践していただくことが望まれます。支部での組織は、檀信徒会・護持会・寺庭婦人会等と直結した形で会員組織を構成していただき、活動の充実をお願いいたします(既成の檀信徒会会則に一隅を照らす運動推進目的を加えて運用していただくことも可能です)。

### ◎会員制度

現行の推進会員制度を廃止し、新たに会員登録を行います。

【現行総本部直属会員】平成十七年四月一日から、総本部所属の年間正会員として登録を受け付けます。

### 一隅を照らす運動 組織図



登録を受け付けます。年会費1,500円(内500円は地球救援募金)を納入いただきます。正会員には、会報(年4回)、大会・研修会等のご案内を配布いたします。

※なお、会員の皆様に配布しております「天台ジャーナル」も「しび」につきましては一般購読となります。購読ご希望の方は、天台宗務庁出版室までお申込み下さい。

### 第19回 天台宗全国一斉托鉢 報告

なる発展に努めて参ります。今後とも、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

先月号に続き、托鉢の報告をいたします。

凡例 ①実施日②実施場所③寄託先・金額

- 【東京教区】①十二月十一日②浅草寺参道③中越地震義援金・十万円、あしなが育英会・十万円、港区社協・五万五千二百二十円
【北総教区】①十二月一日②我孫子市布佐③地球救援・二十万五千七百二十九円
【南総教区】①十二月十日②街頭募金③地球救援募金・六万一千八百七十七円
【埼玉教区】①十二月一日②J R川越駅東口、商店街③中越地震義援金・二十一万八千九百円
【群馬・南前橋部】①十二月四日②前橋市女屋町、小島田町他③地球救援・十七万五千五百一十八円、上毛新聞社・二十一万八千円
【群馬・北前橋部】①十二月四日②大聖寺周辺③地球救援六万七千五百九十九円、上毛新聞社・一万三千七百七十三円
【群馬・西前橋部】①十二月一日②昌栄寺③地球救援・三十万円、県仏教連合会・十万円
【北総教区】①十二月十三日②多野部内寺院③地球救援・一万円
【群馬・北群馬部】①十二月四日②渋川市内商店街、J R渋川駅周辺③地球救援・三万五千八百八十二円、渋川市社協・五万円
【群馬・沼田部】①沼田市③沼田広域消防本部・毛布
【群馬・桐生部】①十二月五日②桐生市内③地球救援・十二万三千四百三十三円
【群馬・東前橋部】①十二月九日②東前橋部内寺院③地球救援・十一万円
【群馬・伊勢崎部】①十二月一日②伊勢崎市内③地球救援・四万六千四百六十六円
【群馬・世良田部】①十二月十二日②世良田部内寺院
【群馬・下仁田部】①十二月一日②下仁田町内③地球救援・三万円、下仁田町社協・十二万四千五百五十六円、県仏教連合会・二万円
【群馬・西群馬部】①十二月二日②西群馬部内寺院③地球救援・二万円
【群馬・桐生部安養寺】①十二月一日②フジマート新里店で計五回③地球救援・三万円、中越地震義援金十三万円、県共同募金会十万円、国境なき医師団・二万四千円
【茨城教区】①十月三十日②J R下館駅前、フーデセンターカスミ③日赤茨城本部・十七万五千八百四十四円
【茨城教区】①十二月一日②県内各所③中越地震、災害復興義援金・二十九万二千五百円
【茨城教区】①十二月四日②つくば市大曾根
【栃木教区】①十二月二十一日②真岡部福城寺、小山市内③中越地震義援金・二十四万八千九百五十六円
【福島教区】①十二月一日②本宮町内③地球救援・三万円、本宮町社協・十万三千三百七十一円、交通安全協議会・三万円
【福島・龍興寺伝道師会、詠讚会】①十一月三十日②会津高田町内③中越地震義援金・五万七千二百四十四円、会津高田町社協・五万七千二百四十四円
【山形教区】①十二月一日②米沢市内③地球救援・十万円、山形新聞愛の事業団・八万八千九百九十一円
【近畿教区】①十一月十一日②天王寺西門前③地球救援・七万二千七百七十八円
【信越教区】①十二月五日②アピタ高森町大型店店頭③中越地震義援金・十一万九千四百六十七円
※略称説明
地球救援 一隅を照らす運動地球救援募金、NHK NHK 歳末助け合い運動義援金、社協 社会福祉協議会
今回の托鉢は、全国六十三箇所を実施され、総額千六百六十三万四千四百八十一円の浄財が寄せられ、その四百二十二万六千六百八十八円が地球救援募金に寄託されました。ご協力ありがとうございました。



北総教区



埼玉教区



福島教区



福島・龍興寺伝道師会、詠讚会



山形教区



陸奥教区